

女性の皆様からの主な提言等と市側の回答要旨

提言等の項目	H30夏開催の「市長と語る会」	
	皆様からいただいた主な提言等	その際の回答要旨
①市のPR	テレビで、滑川市がどういうところかと聞かれた若い人が言いよんでいた。滑川市の良いところを答えられるようにするには、小さい頃から教えていかなければならないのではないかと思う。滑川市は住みやすくて良い町なので、対外的にアピールできないのはもったいないと思う。市民が、市の魅力をアピールできるような体制を整えていけば良いのではないか。	滑川市は宣伝下手と言われていました。最近は、児童館や子ども図書館など特色のある施設が増えていますので、市民の皆様の間にも魅力が浸透するように、反省してPRに努めていきたいと思えます。
②不妊治療への助成	子どもが欲しいが、できない人へはどのような手当があるのか。	市では、子どもを望んでいるが授けられない方に対して、不妊治療や男性不妊治療、不育症治療への助成を行っています。不妊治療については、県の助成制度もあり、市に申請される方の多くが併用して利用しています。なお、平成29年度は、不妊治療費27件(延べ52件)、不育症治療費2件の助成を行いました。
③女性の管理職	市の管理職には男性が多い。女性の力を活用したいというのであれば、まずは市も女性の管理職を増やすべきではないか。	滑川市における女性の管理職は増加しています。また、先日、県庁初の女性部長をお招きし、市の係長以上の女性職員に対して講演いただくなどの取り組みも行っています。社会全体で、女性が活躍するという意識が高まらなければならないと思えます。女性の社会進出について革命が起きれば、世の中が変わるのではないのでしょうか。
④結婚・出産についての教育	親がどれだけ婚活について焦っても、本人が乗り気ではない。最近は、結婚より趣味を優先する人が多くなっているため、子どもの頃から結婚や出産について教えていかなければならないのではないかと思う。	現在、ほとんどの小学校で「命の教育」と題し、助産師を招き講義をしていただき、男女間で相手を大事に思う心を育てているところです。このような専門家とも協力しながら授業を進めています。男の子が女の子をいたわることができるよう、しっかりと性教育を行うことが重要だと考えます。
⑤孫とおでかけ支援事業	孫と魚津市の埋没林博物館に行った際、「孫とお出かけ支援事業」の対象となるため、入館料が無料になると言われた。滑川市でも対象の施設があるのか。	「孫とお出かけ支援事業」は、高齢者の外出の促進や、世代間交流を通じて家族の絆を深めることを目的としています。滑川市内では、ほたるいかにミュージアムと市立博物館の有料の企画展が対象施設となっています。祖父母の方とお孫さんが一緒に入館する際に、申請書を記入していただくことで、無料で入館することが可能となります。そのほかに、市外でも様々な施設が対象となっています。
⑥街流し	龍宮まつりの街流しにおいて、例年、地域では扇子踊りを踊っている。誰かが踊らなければ衰退してしまうと思い、踊り続けているが、踊る人は一向に増えず、2年前によく早月中学校が扇子踊りを踊るようになった。小学生の頃から扇子踊りを教えることはできないのか。	中学生は、扇子踊りで街流しを行っています。また、地元の新川古代神保存会の方に、小・中学校で踊りを教えていただき、運動会でも披露しています。現在は、園児が新古代神踊り、小学生がやさこ、中学生が新川古代神で街流しを行っています。今後、保護者をはじめとする皆様のご協力があれば、さらに街流しへの参加を検討できると思えます。

女性の皆様からの主な提言等と市側の回答要旨

提言等の項目	H30夏開催の「市長と語る会」	
	皆様からいただいた主な提言等	その際の回答要旨
⑦除草	上市街道の歩道の道路側は除草されているが、歩道側は除草されておらず、通学路となっていることから危険である。このことについて、町内で除草すべきなのか、どこかへ要望すれば除草をしてもらえるのか教えてほしい。	ご提言の道路は、県道ですので、県へ要望します。
⑧保育園(1)	孫を保育園に預けたいが、定員の関係で、入所1か月前でないと決まらなと言われた。もう少し早い時期に入所が決まったり、自分の入れたい園に子どもを預けられるようにはならないのか。	保育園等に入所を希望する際は、入所希望の前々月までに申込みをされた方の中から、利用の優先度を判定して調整しているため、1か月前にならないと最終決定ができません。滑川市においては、園によっては利用希望が多く、入りにくい園もありますが、空いている園もあるため、待機児童は発生していないところですが、入所を希望される方の状況を入所の直前まで待つて判断していることから、ご理解をお願いします。
⑨保育園(2)	親としては、幼稚園・保育園の頃から、同じ小学校区内の施設に通わせたいと思う。0～2歳児の時点で、校区外の保育園へ入所すると、後から校区内の園へ移るのは難しいと聞いたが、どうなのか。	保育所・幼稚園・認定子ども園の定員は、施設によっては1年ごとに見直しを行っており、利用希望の多い施設は、定員を増やす可能性があります。利用にあたっては、住所等を考慮しながら調整していますので、なるべく校区内の施設に入所できるよう配慮していきたいと考えています。また、家の近くの園に入所できるよう、地元枠をとれないか検討していきます。
⑩政争の町	滑川市は政争の町と言われているが、何十年も前のしこりが今も残っているのは、情けないことだと思う。そういったしこりはお互いなくして、民主主義で決まったものは、みんなで支えていくようになれば良いと思う。	ご提言のようなしこりを払拭するために頑張ります。
⑪地下道	柳原の旧国道8号の地下道の天井の塗装が剥がれており、コンクリートが丸見えになっている。子どもたちの通学路でもあるため、なるべく早く対応をお願いしたい。	県管理の地下道のため、早急に県に対応を依頼します。
⑫災害対策	災害の時の一人暮らしの高齢者への対応は、民生・児童委員にも関わりがあることかと思うが、民生・児童委員や市役所にばかり頼らないで、自分たちで何とかするためには、どのようにしていくべきなのか。体操をするなどして、動けるように自助努力はしているつもりだが、今後、高齢者だけの家庭が増えていく中で、何か良い方法があれば教えてほしい。	市民の皆様が、いくつになっても住み慣れた町内で元気で暮らしていくためには、町内における住民同士の支え合いが必要です。このため、現在、地域包括支援センターでは、現在の町内会の状況を踏まえ、町内単位で、将来、どういった問題があるか考えていただき、どうしたら住民同士で支え合いが行っていきけるかを話し合っただく「町内づくり意見交換会」の開催を呼びかけています。 また、皆様がいつまでも元気で生活していくためには、一人ひとりが介護予防に取り組んでいただくことが大切であり、今年度から柔道整復師会のご協力をいただきながら、毎週火曜日には、市民交流プラザにおいて、「かようびクラブ」を実施しており、体操や脳活トレーニングなどを行っていますので、そちらにも参加いただきたいと思います。

女性の皆様からの主な提言等と市側の回答要旨

提言等の項目	H30夏開催の「市長と語る会」	
	皆様からいただいた主な提言等	その際の回答要旨
⑬ひとり親家庭	市内の、母子家庭・父子家庭・一人暮らし家庭の人数を教えてください。	住民基本台帳上、一人暮らし家庭の人数は1,600人となっています。その中には、施設に入っている方や、同じ世帯でも住民票が別になっている方がいらっしゃるため、実際の人数はもう少し少ないかと思われます。 平成29年10月1日現在、母子家庭233世帯、父子家庭52世帯の合計285世帯です。そのうち、小学生以下の児童数は188名です。なお、この中には、父または母のどちらかのほか、祖父母と一緒に住んでいる家庭も含んでいます。